

序

富岡製糸場と絹産業遺産群は、高品質な生糸の大量生産の実現をもたらした19世紀後半から20世紀にかけての養蚕、製糸分野における日本の技術革新及び世界との技術交流を示す集合体の好例として、2014年6月に世界文化遺産に登録されました。

群馬県では、世界遺産学術委員会や国際シンポジウム、国際専門会議を通じ、富岡製糸場と絹産業遺産群の顕著で普遍的な価値に関する総合的な調査研究を進め、ユネスコ世界遺産委員会へ提出する推薦書を作成し、念願の世界文化遺産登録を達成しました。

この度、世界遺産登録以来5年余の歳月を経て、2020年3月に世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」のガイダンス及び調査研究施設として、群馬県立世界遺産センター「世界を変える生糸の力」研究所（略称：セカイト）が設立されました。

これを機に、名誉顧問の石井寛治先生の登録5周年記念講演や世界遺産登録から現在までの各構成資産の保存修理、活用等の動向ほか、研究所の名に恥じぬよう真摯に調査研究に取り組んできた成果を、この度、群馬県立世界遺産センター紀要第1号として取りまとめ、皆様のお手元にお届けできることは喜びに堪えません。本紀要刊行にご協力いただいた多くの方々に厚くお礼申し上げます。

本書が、富岡製糸場と絹産業遺産群さらには日本の蚕糸業、絹文化の総合的な調査研究の一層の深化への基礎となることを願ってやみません。そのために、より多くの方の調査研究、教育普及活動への積極的な参加など、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

群馬県立世界遺産センター

所長 高橋 陽 一